

無知や自信過剰による誤解

●個々が抱える背景や事情

前号再掲 「ワンチーム・チーム〇〇・絆・一致団結」等と叫ぶには注意が必要です。個々人には、その背景や事情があります。ワンチームを創ることが目的となってしまうと、一人一人が見えなくなってしまうかもしれません。組織という箱の中で、異質を排除・差別する空気ができてしまうと、①自分の物差ししか持たない→②自分の物差しで相手を測る→③測った上で断罪する…こういった暴走も生まれかねないです。個人主義や非協力者のレッテルを貼られてしまうこともあります。

では、個々が抱える背景や事情にはどんなものがあるのでしょうか。

①外見では分からない障害

視覚や聴覚障害あるいは心の病等は、外見からは分かりにくい場合も多いです。思う様に活動できない、集団参加が難しいこともあります。その人なりの参加のしかたや可能な範囲もありますが、健常を前提に、往々にしてその時点ではじかれる・非難されるケースも見受けられます。説明しても理解が得られにくかったり、陰で言われて弁明の機会がなかったりもします。

②他人が知らない事情

その人やその立ち位置における特有・特別の事情があったりもします。例えば、2つの任務が同時に重なった場合、ひとつは個人任務もうひとつは協働任務であったとします。①個人よりも集団の任務を優先させる場合と②集団よりも個人を優先させる場合 があります。①のケースは、個人を後回しにできる 個人が抜けると集団に支障が出るようなら、集団を優先します。②のケースは、個人の任務が本務である 代役がない 後回しにできないなら、個人を優先します。本来あるべきチームの姿は、「ひとりがみんなのために みんながひとりのために」です。「チーム〇〇」を強調すると、その点（本来あるべきチームの姿）が抜け落ちてしまいがちです。

③一部分・一場面しか見ていない

その人が集団に寄与しているのにも関わらず、それが見えていない。たまたまある一部分・一場面だけ見て判断している場合もあります。見る目（洞察力）の不足や無関心から来る偏見・誤解です。見える部分や光が当たる場所には、皆がこぞって協力します。それ以外にも、影や裏で下支えしている場合もあるのです。それを見ていない、あるいは見えていても感じない（感性・感受性の不足）と誤った判断で評価してしまいます。例えば、「見守り」という任務は、いざという時に手を差し伸べ支援するのが役割です。何もなければ手を差し伸べませんが、他者から見ると、何もしないでそこにいるだけと映ってしまうことがあります。多くの人は見守りを理解してくれますが、中には誤解する人もいるということです。

●無知や自信過剰が差別や偏見（誤解）を生む

無知や自信過剰による差別や偏見は自身に自覚や意識がないだけに難しいです。他人が置かれた立場や事情と自分がかげ離れていると、想像がつかないことも多いです。「自分は差別をしない平和主義者」ではなく「誰しものが無意識に差別をしている可能性」があるのです。立場の強い者（指導者や管理者等）こそ、謙虚さが必要かも知れません。「チーム〇〇」「全員野球」「一致団結」を掲げるなら、まず自身が本当に一人ひとりに耳を傾けているか、無関心や丸投げはないか、謙虚さを忘れてないか等を常々ふり返り、自戒を込める必要があると感じます。